

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	文化資源を活用したまちづくり		
施策	①地域文化資源の発掘及び相互交流の推進			
(施策の小項目)	—			
主な取組	地域文化継承支援事業	実施計画 記載頁	60	
対応する 主な課題	○文化資源は人々を魅了し惹きつける力を持っているが、こうした文化資源の持つ様々な価値や魅力に地域の人々が気づかないことも少なからずあるため、地域外との交流を通じて地域文化の掘り起こしを図っていく必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	地域文化資源を発掘するため、県内各地で実施されている伝統芸能、伝統行事等の調査・情報収集を行い、本県の文化・地域振興に図るためなどに活用する。文化年鑑の作成については類似の冊子との差別化を調整しつつ、作成を検討する。また、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。							
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体  県文化協会	
	伝統芸能等のデータベース情報収集・作成			3回以上 シンポジウム開催	→			
	沖縄県文化年鑑の作成(各年度)			各地域でのシンポジウム等の開催		→		
				1回以上 公演回数	→			
	文化講演の実施			地域の伝統芸能を集めた公演				
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課							

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	7,737	7,248	県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとぅば等の普及・継承についての文化講演として、シンポジウムを4回実施し、計470名の来場者があった。 また、普段は地域の祭事等でしか披露されていない、各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演「特選 沖縄の伝統芸能」を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
シンポジウム開催件数			3回	4回

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果
順調	<p>離島を含む県内4地域(うるま市、久米島町、八重瀬町、名護市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化講演(シンポジウム)を行い、地域の伝統行事等の発信及び活性化を図った同シンポジウムでは、昨年度より1回多く開催したので単純比較はできないが、昨年より1.7倍近くの来場者数があった。</p> <p>また県内各地域で披露されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場おきなわで披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行うことで、自らの地域の伝統芸能等の再認識が図られた。以上の取組により、自らの地域の伝統文化等の情報共有や大切さを再発見することができたと考えられ、順調である。</p>

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	9,723	各地域の伝統芸能を集め「特選 沖縄の伝統芸能」として国立劇場おきなわで公演を行うとともに、地域の文化・伝統芸能等に関するシンポジウムを3回開催する。また、今年度は地域文化の継承に関する文化講演及び意見交換会を開催する。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する。</p> <p>②シンポジウムの効果をさらに波及することと、検証するためのアンケート調査を実施する。アンケート項目は「関係者をどれだけまきこめたか」「どんな行動をとってもらいたいか」「どんな学習ができたか」という観点から、「どのようなインパクト(社会的影響)があったか」を検討できるよう設定する。</p>	<p>①各地でのシンポジウムを4回開催し、各地域住民が活発に意見を交わす姿が見られた。</p> <p>②各シンポジウム毎にアンケート調査を行い、平均して約41%の回答を回収した。シンポジウムのアンケート結果では、約80%の満足度を得られた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
シンポジウムの参加者数等	165名 (24年度)	274名 (26年度)	470名 (27年度)	→	—
状況説明	平成27年度は4回シンポジウムを開催し、参加者も去年と比べて1.7倍である470名の参加者があった。昨年度の開催は3回であったため、参加者の人数について単純比較はできないが、より多くの地域の住民に考える機会を提供できた。				

### 3 取組の検証(Check)

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。
- ・地域文化継承に関して、文化関連団体等の横の連携が取れていない。情報交換できるような場がなく、各地域の取組については情報が限られている。

##### ○外部環境の変化

- ・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への価値が薄れている。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。
- ・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化し、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域伝統公演を開催する。
- ・各市町村文化協会や文化関連団体等を集めた文化講演会及び意見交換会を開催し、ネットワークの強化を図る。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	文化資源を活用したまちづくり		
施策	①地域文化資源の発掘及び相互交流の推進			
(施策の小項目)	—			
主な取組	市町村文化行政との連携強化	実施計画 記載頁	60	
対応する 主な課題	○文化資源は人々を魅了し惹きつける力を持っているが、こうした文化資源の持つ様々な価値や魅力に地域の人々が気づかないことも少なからずあるため、地域外との交流を通じて地域文化の掘り起こしを図っていく必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄の地理的・歴史的経緯から育まれてきた地域の魅力的な文化資源を再評価するとともに、これらを最大限活用して文化の薫り高いまちづくりを推進する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	文化行政連絡会議の実施等 →						県 市町村
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
—	—	—	文化行政に携わる各市町村の担当者と構成する文化行政連絡会議を開催し、平成27年度の県の主な施策を周知し、文化行政に対する理解を深めるとともに、市町村の文化資源の活用事例を紹介し、意見交換を行った。	—
活動指標名			計画値	実績値
文化行政連絡会議の実施等			年1回	年1回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	H27.6.16に市町村文化行政連絡会議を開催。市町村と連携する一括交付金等の事業を周知することにより、文化行政に対する理解を深めることができ、また市町村単位で文化資源の活用をしている具体的な事例を紹介することにより、新たな地域文化資源の発掘と市町村間の相互交流を促す契機となった。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
—	—	H28年6月に市町村文化行政連絡会議を開催した。引き続き、県の主要施策及び文化芸術振興条例やしまくとぅば関連事業について、市町村独自の取組支援と連携強化を呼びかける。また、市町村における優れた文化活動事例の発表などを盛り込む。		—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①継続して当連絡会議を活用し文化行政担当者へ県の文化関連主要施策の周知を図るほか、観光分野に携わる市町村行政機関との連携に向け、関係機関を通じ県の文化関連主要施策の周知の機会を作る。観光担当課と会議合同開催の検討をしたが、タイミングが合わずに実現できなかったの、開催時期を調整する。</p> <p>②県の事業を活用している市町村の取組事例や各市町村ごとにその特色を生かして成功している文化事業などの取組状況について、連絡会議等において事例発表をするなどして情報共有・意見交換を促進する。市町村単位での取組を紹介したことで、補助事業などに関心を示す市町村も始め効果が現れているので、引き続き、実施する。</p> <p>③しまくとぅばに関する取組に関心が寄せられているので、しまくとぅばに関する事業の活用や取組事例などを拾い上げ、紹介していく。</p>	<p>①関係機関等との調整ができていないため、未だ反映できていない状況である。そのため、引き続き調整が必要である。</p> <p>②③文化行政連絡会議を活用し、市町村と連携する事業、補助金などを利用した事業等を周知した結果、市町村主催のユニークな文化芸術イベント、しまくとぅばを活用した取り組み等が増加している。また、文化芸術団体の特色ある文化資源を活用した事業を支援し、各地域が持つ文化資源の再発見、地域資源を効果的に活用したまちづくりに寄与した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
県が支援した市町村主催の文化芸術関連イベントの来場者数	521人/年 (23年度)	9,575人 (27年度)	1,000/年 (28年度)		—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>各市町村ごとにその特色を生かした文化事業やイベントが徐々に増え、地域の活性化につながりつつある。また、成果指標の大きな改善については、市町村が文化関係団体と連携し、演劇、ダンス、シンポジウム、展示会等趣向を凝らしたイベントを企画していることがあげられる。特にしまくとぅばと演劇をからめた企画が増えてきている。H28目標値は既に達成されており、今後も増えていくものとする。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <p>・文化産業は観光産業との結びつきが重要になってきているが、観光分野に携わる市町村行政機関との連携体制が未だ構築できていない(市町村文化行政との連携強化)。</p>
<p><b>○外部環境の変化</b></p> <p>・県の主要施策等について周知を図っているが、市町村担当者がどう活用できるのかという視点に結びついていない現状がある。</p>

## 様式1(主な取組)

### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・文化行政連絡会議の開催時期や、参加対象市町村機関及び部署の検討、及び市町村の実施しているユニークな文化事業の事例を紹介するための情報収集や、関係機関と連携できる体制を構築する必要がある。

## 4 取組の改善案(Action)

・継続して連絡会議を開催し、文化行政の情報交換の機会を創出するほか、あらたに観光分野に携わる市町村行政機関との連携に向け、関係機関を通じ県の文化関連主要施策の周知の機会を作る。連絡会議等において、特色を生かして成功している事例発表をするなど、情報共有・意見交換を促進する。

・文化行政連絡会議の見直し(観光関連部署(県内部)及び文化行政とリンクする市町村観光関連部署の会議招聘、市町村の文化事業事例の情報提供の拡大、県と連携できる事業の周知と工夫など)が必要である。(市町村文化行政との連携強化)

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	文化資源を活用したまちづくり		
施策	①地域文化資源の発掘及び相互交流の推進			
(施策の小項目)	—			
主な取組	クリエイティブアイランド沖縄推進事業(仮称)	実施計画 記載頁	60	
対応する 主な課題	○沖縄県内では、一部市町村においてエイサーや地域の食文化を活用した地域づくりが進められているが、さらなる地域活性化を目指し、地域の個性豊かな文化資源を取り入れたまちづくりの取組はこれからの課題となっている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	各地域において文化芸術活動の中心施設となる公共文化施設の機能強化を図ることで、地域における文化芸術活動を促進させるとともに、文化芸術を活用した魅力ある地域づくりを促進する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	地域における文化芸術を活用したまちづくりの促進					→	県 市町村
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	148,485	139,131	沖縄文化活性化・創造発信支援事業において、東アジア文化都市の立候補に向けて各地域で取り組むアートフェスティバル、アートを取り入れた地域やまちづくりについて勉強会を開催し、クリエイティブアイランド沖縄につながる取組を支援した。	一括交付金 (ソフト)
文化芸術による地域活性化事業	5,643	3,923	離島過疎地域等の市町村(多良間村、本部町、宮古島市、竹富町)において、舞台芸術公演の鑑賞機会を提供した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
離島過疎地域等における文化芸術体験機会の提供 (文化芸術による地域活性化事業)			5地域	4地域
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	<p>沖縄文化活性化・創造発信事業において、東アジア文化都市の立候補に向けて各地域で取り組むアートフェスティバルやそこで関わり合う住民との交流を通じ、地域やまちがアートをきっかけに移り変わる事例、可能性についてシンポジウム、勉強会を開催し、クリエイティブアイランド沖縄につながる取組を支援した。</p> <p>※東アジア文化都市とは、日中韓3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市の文化芸術を活用したイベント等を実施することで、東アジアの相互理解・連帯感形成を促進し、多様な文化の国際発信力強化を図ることを目指すもの。</p>			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	133,185	沖縄文化活性化・創造発信支援事業において、地域における文化芸術活動を促進させるとともに、文化芸術を活用した魅力ある地域づくりを促進する取組を支援する。	一括交付金(ソフト)
地域の文化力振興事業	6,860	離島過疎地域等の市町村において、実演家による舞台芸術公演の鑑賞及び参加・体験機会の提供を行う。 (例)琉球舞踊、クラシック、ポップス、漫才、演劇、組踊等。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①上記改善余地の検証を踏まえ、地域の文化芸術を活用したまちづくりとなる取り組みをサポートしていく。</p> <p>②沖縄文化活性化・創造発信支援事業において東アジア文化都市を那覇市に誘致するために那覇市との連携が不可欠であるため、今後認識を共有し連携を図る。</p> <p>③文化芸術による地域活性化事業については、市町村の取組が円滑に実施できるように、県内に所属する芸能団体や過去の公演実績等に関する情報提供を行う。また、募集に際して、次年度の予算編成時期に最初の募集をかけ、市町村への周知・開催地の早期確保を図る。</p>	<p>①上記改善余地の検証を踏まえ、地域の文化芸術を活用したまちづくりとなる取り組みをサポートした。</p> <p>②那覇市との情報交換を行ったところである。</p> <p>③平成27年度においては、年度当初から対象市町村に対して早期周知を図り、併せて、実施回数の少ない地域には個別に案内及び周知を図った。また、募集の意思が確認できた場合は、事業計画や申請関係書類の作成等について助言を行い、事業の実施に結びつけた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
公演入場者数	1,130名 (26年度)	1,442名 (27年度)	1,500名 (28年度)	↗	—
状況説明	クリエイティブアイランドに繋がる事業を沖縄文化活性化・創造発信支援事業で支援した。				



### 3 取組の検証(Check)

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・文化芸術をまちづくりに活かすことで、心の豊かさ、地域への愛情が育まれるという意識を認識させる必要がある。

##### ○外部環境の変化

・外部有識者による審査を経て採択されるため、事業実施できるかどうか定かでない。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・事業の枠組み、事業化に向け今後の取り組みについて検討を行うとともに関係団体との連携を図る必要がある。

・沖縄文化活性化・創造発信支援事業において文化芸術を活用した地域づくりに向けた取組が採択された場合、関係団体との連携を支援する。

### 4 取組の改善案(Action)

・上記改善余地の検証を踏まえ、地域の文化芸術を活用したまちづくりとなる取り組みをサポートしていく。

・東アジア文化都市を県内の自治体に誘致するために誘致を希望する自治体との連携が不可欠であるため、今後認識を共有し連携を図る。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	文化資源を活用したまちづくり		
施策	②地域文化を活用したまちづくりの促進			
(施策の小項目)	—			
主な取組	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	実施計画 記載頁	61	
対応する 主な課題	○文化資源は人々を魅了し惹きつける力を持っているが、こうした文化資源の持つ様々な価値や魅力に地域の人々が気づかないことも少なからずあるため、地域外との交流を通じて地域文化の掘り起こしを図っていく必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1件以上 助成件数	1件以上	1件以上	2件以上	2件以上		県
	地域の文化資源を活用した文化・芸能団体活動の支援						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	148,485	139,131	各事業者を対象に、4月に公募事業説明会を開催し、事業の概要や提出書類等の周知を図り、文化資源を活用した取り組みや継承者育成に向けた事業提案が多く申請されるよう努めた。組踊りや琉球芸能をはじめとする沖縄の伝統文化を発信する事業を採択し、普及に取り組んだ。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
地域の文化資源を活用した文化・芸能団体活動の支援			1件以上	2件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	活動指標の計画値1件に対し、クイチャー踊りの観光化に向けた普及用パンフの制作、プロモーションイベントへ参加する事業、及び宮古の文化・歴史的映像をアーカイブ化し、進学等で島を出る学生へ宮古の文化歴史解説書を制作し配布を行うマーク(宮古)の地域教育プログラム事業の2事業を支援し、各地域がもつ文化資源の再発見、地域資源を効果的に活用したまちづくりに寄与したことから、順調とした。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	133,185	地域の文化を積極的に活用し、文化・芸能団体活動の活性化を図る。助成件数は2件以上を目標にする。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①団体間の連携を図るため、事業者情報交換会を行う。</p> <p>②事業計画書様式に5年後、10年後の目標記載欄を設ける。</p> <p>③引き続き、応募時から文化関係団体へ助言、指導を行うことで、深く関わりを持ち、事業提案前は事業計画書の記載方法や採択される上でのポイントなど指導し、不採択となったあとも次年度につながるよう事業の考え方、取り組み方法を助言指導する。④本島だけでなく、宮古八重山での事業者説明会を開催し、事業者の掘り起こしを図る。</p>	<p>①②団体間の連携を図るため、事業者情報交換会を4月に行い、また事業計画書様式に5年後、10年後の目標記載欄を設け、先を見据えた取り組みとなるよう意識付けを行った。</p> <p>③④応募時から文化関係団体へ助言、指導を行い、また宮古八重山での事業者説明会を開催するなどし、事業者の掘り起こしを図った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
伝統行事の伝承・復元等に関する事業を行う団体への助成件数(累計)	0件 (23年度)	7件 (累計)	15件	7件	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	地域の文化資源を活用した文化・芸能団体活動の支援を行うことにより、文化資源の持つ様々な価値や魅力を地域の人々に周知させることができた。引き続き関係団体へ事業内容の周知を行い、H28目標達成に向けた取組を行う。				

### 3 取組の検証(Check)

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄文化活性化・創造発信支援事業は文化関係事業者からの提案に対し、外部有識者の審査を経て、事業実施されるため、外的要因が高いが、文化振興会のPD(プログラムディレクター)やPO(プログラムオフィサー)を通じて、助成事業として採択されるよう、助言指導を丁寧に行っていく必要がある。

○外部環境の変化

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

文化資源の持つ様々な価値や魅力を地域の人々が再認識できるよう、地域の文化資源を活用した文化・芸能団体活動の支援を行うため、さらに補助事業の目的や実績の周知を行う必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・ホームページ等や事業説明会において、地域の文化資源を活用した支援事業の成果等を周知する。
- ・引き続き本島だけでなく、宮古八重山での事業者説明会を開催し、事業者の掘り起こしを図る。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	文化資源を活用したまちづくり
施策	②地域文化を活用したまちづくりの促進	
(施策の小項目)	—	
主な取組	伝統食文化の保全・継承・活用の推進	実施計画 記載頁 61
対応する 主な課題	○沖縄県内では、一部市町村においてエイサーや地域の食文化を活用した地域づくりが進められているが、さらなる地域活性化を目指し、地域の個性豊かな文化資源を取り入れたまちづくりの取組はこれからの課題となっている。	

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化や歴史に培われてきた沖縄特有の食文化を保存継承するとともに、伝統的な食文化を活用して沖縄文化の魅力を県内外へ発信するため、調査・検討を行い、食文化のあるべき姿、進むべき方向性を明確にする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		伝統食文化に関する調査・検討					県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄食文化の魅力味わい事業	8,976	8,449	有識者による沖縄の食文化に関する検討委員会4回開催し、歴史的・地理的背景等を踏まえ沖縄の食文化の現状分析、課題抽出を行い、課題解決の取組を検討した。また、食文化の継承について考える地域円卓会議及び伝統的な料理を親子で作るワークショップを実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	沖縄の食文化に関する検討委員会において琉球王朝時代から戦後まで幅広い伝統的な料理の作り手の高齢化や伝統行事の簡略化による行事食の衰退等により、伝統的な食文化が失われつつあるため、保存・継承する必要があるとされた。しかし、伝統的な食文化とはどのようなものか共通認識がもたれていないことから、保存・普及・継承していく「伝統的な食文化」の定義をまとめ、たことから順調とした。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄食文化保存・普及・継承事業	9,183	27年度の検討内容を踏まえ、伝統的な食文化の保存・普及・継承に向けた具体的な取組を検討する。また、伝統的な食文化に関する展示会を実施し、伝統的な食文化について学ぶ機会を提供することで県民の関心を喚起し、次世代へ継承していく気運醸成を図る。失われつつある伝統的な食文化の保存・継承という課題が明確になったため、平成28年度から、課題解決に向けて、1-(4)-ア「沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり」で施策展開していくこととした。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①食文化検討委員会において、委員である外部有識者の意見を聴き取ることで、食文化のあるべき方向性、課題等を明確にする。</p> <p>②上記を踏まえて、今後の事業の必要性、必要があると判断した場合の効果的な普及・継承事業を検討する。</p>	<p>①②検討委員会において、伝統的な食文化が失われつつあるとの課題が明確となり、保存・普及・継承に向けた取り組みが必要であるとされたことを受け、しかし、伝統的な食文化とはどのようなものが共通認識がもたれていないことから、保存・普及・継承していく「伝統的な食文化」の定義をまとめた次年度の事業につなげた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	(〇〇年)			(〇〇年)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
検討委員会開催回数	0回 (26年)	4回 (27年)	(〇〇年)	→	(〇〇年)
状況説明	平成27年度の検討委員会における「伝統的な食文化」の定義を踏まえ、保存・普及・継承に向けた具体的な取り組みについて、検討を行い、事業執行につなげる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化とは、料理や食材、調理法、風俗習慣、食器などの様々な要素を包含しているため、農林、保健医療、教育庁など、部局を横断しての連携が必要になってくると考えられる。</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の多様化、若い世代の味覚や食嗜好の変化等により、伝統的な料理を作る・食べる機会が減少し、県民の興味・関心が薄れている。</li> </ul>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>関係団体等と連携しながら、県民が伝統的な食文化の価値を再認識し、食文化を継承していく機運の醸成を図るよう取り組む必要がある。</p>
---

4 取組の改善案(Action)

<p>行事食等をとおして、伝統的な食文化の成り立ちを周知することにより県民が伝統的な食文化の価値を再認識し、食文化を継承していく機運の醸成を図るよう取り組む。</p>
---